



安全装備品と消防団活動

島根県安来市消防団

1 はじめに

安来市は島根県の東部に位置し、西には東出雲町、松江市、雲南市に接し、東は鳥取県の米子市、南部町に接している中海圏域のほぼ中央にある市です。

市域は東西およそ22km、南北およそ28km、面積420.97km²で人口は約42,300人です。平成16年10月1日に平成の大合併により、旧安来市、広瀬町、伯太町が合併し、現在の安来市となりました。

本市の南部は中国山地に連なる豊かな緑に覆われ、そこを源流として中海に注ぐ飯梨川、伯太川流域が市域に含まれ、上流域には県東部の水

瓶としての機能を果たす布部ダム、山佐ダムがあり、下流域の三角州平野には広大な耕地が広がっており、山、川、平野、海のすべてを持ち、自然環境にはとても恵まれています。

交通網は、JR山陰本線が東西に走り、西へ約30kmの地点に出雲空港、北に約10kmの地点に米子空港があります。そのほか、高規格道路である安来道路、国道9号線や国道432号線などの幹線道路のネットワークがあります。

当市は、数多くの神話や伝説の舞台として歴史的、文化的にも高い評価を得ており、神代の昔、スサノオノミコトがこの地を訪れ、「吾が御心は、安平（やす）けくなりぬ」と言われた



安来市内を望む

ことから「安来（やすぎ）」というようになったと伝えられています。

また、当市は、昨年放送されたNHK朝の連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の原案者である、水木しげるさんの妻、武良布枝さんの故郷でもあり、放送開始から全国より10万人を超える人が武良さんの生家を訪れ大変賑わいました。

市内には、米国の庭園専門誌により、8年連続日本一に選定された日本庭園を有する足立美術館があり、館内には横山大観や河井寛次郎をはじめ、数多くの著名な巨匠の絵画、陶芸などの作品が展示されています。さらには、ヤスキハガネの生産地として鉄の文化を今に伝える和鋼博物館、戦国時代に名を馳せた「尼子一族」の史跡、その他重要文化財である神社仏閣等が多数存在しています。

それと、皆さんも「どじょうすくい」でおな

じみの、日本を代表する民謡の一つである「安来節」発祥の地としても知られています。

2 消防団の組織概要

当市の消防団は、市・町合併により、1市2町の消防団が統合し安来市消防団となり、従来の各市町の消防団はそれぞれ「方面隊」として組織替えし、平成23年4月1日現在、1団本部、3方面隊19分団で団員総数745名の組織構成となっています。その中には女性消防団員が16名在団しています。

消防車両については、指揮車2台、消防ポンプ自動車8台、消防団救助資機材搭載型車両1台、小型動力ポンプ付積載車38台、小型動力ポンプ2台、を配備しています。

安来市消防団では、各分団の実戦訓練や幹部訓練、部隊訓練、水防訓練などに取り組んでい



島根県消防操法大会（閉会式）

ます。また、救急講習や春、秋季の火災予防運動期間中の防火パトロール等を実施しています。その中で、女性消防団員は各種式典等の補助、一般家庭防火査察の実施、市消防操法大会の審査員補助及び市主催の各種イベントへの参加などで活躍しています。

昨年は当市で島根県消防操法大会が開催されました。当市消防団は、自動車ポンプの部で準優勝、小型ポンプの部で準優勝及び第4位入賞とすばらしい成績で、また一つ安来市消防団の実績を残しました。

3 安全装備品整備等助成事業を利用するに至った経過

安来市消防団は、1市2町の合併により誕生し、新生安来市消防団として発足しましたが、早急に解決すべき課題、旧市町の三つ消防団を

一つの消防団として新たな消防団活性化計画を策定することがありました。そして、消防車両の導入及び消防団拠点施設の整備を行い機動力の強化を推進すると共に、消防団はもとより自治会等の理解と協力を得ながら、各班の再編を積極的に実施しているところです。

その一方で、合併による安来市消防団の個人装備の充実及び統一という観点から、団員の安全装備品の整備に目を向ける必要もありました。このことから団員の安全を考え、災害等に対応するため特に必要なものとして、保安帽の統一を図ることを考え、財源を模索し、消防基金の「消防団員安全装備品整備等助成事業」を活用することにしました。

県の担当の方とも検討を進め、2ヶ年計画により整備することとし、1年目に当たる平成22年度は消防基金の助成を受け保安帽400個の整



安来市消防団出初式（通常点検）

備を行いました。

4 今後に向けての取り組み

今後は、当初の計画に基づき、残りの保安帽350個余りの整備を実施できるよう基金に要望したいと考えています。全団員に統一した保安帽の整備を行うことが安来市消防団としての一

体感と全体の和が生まれることに資することを期待しています。

災害等に立ち向かう消防団のより良い活動環境作りに取り組み、団員の公務災害の防止を図るために、今後も様々な安全装備品の整備を行っていきたいと考えております。



消防団員用保安帽